1440号(夕焼け通信 創刊1993.4.23)　2024.4.15
〒690-0823島根県松江市西川津町4276-B402　gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/　編集 宮森健次

北海道への旅、三度目

木幡智恵美

1

「もう一回北海道へ行ってみようか。いつまで元気でいられるか分からんし」。ふと思いついた私の提案に夫は即答した。「おう、行くか」。

退職後、仕事と子育てに奮闘していた時には見えなかった互いの素性に触れ、また、だんだんと介護度が上がっていく姑への接し方をめぐって、二男に「喧嘩すんな」と窘められることが多くなっていた私たち。もっとも、夫の方は自分のペースを全く崩してはいない。私が一方的に嫌なところを見つけてしまってそこに拘り、姑の介護へのかかわり方などに苛立っていただけだった。それが、姑を送り、二男が連れ合いを見つけて家を出、二人だけの暮らしになると、蟠っていたものが少しずつ解れだした。心の中の大部分を占めていた姑と二男が抜けた穴を、家という同じ空間に残されたたった一人の相手との日々の暮らしの積み重ねが少しずつ埋めていったというほかない。

「じゃあ、車を買い替えにゃいかんな」

待ってましたとばかりに夫が言う。「この車じゃ管理機が積めんだろ」「三人分のチャイルドシート積めんしなあ」「婆さん乗せるのに狭くて」と三年くらい前から車を替えたがる夫に、「もう管理機運ぶ必要ないじゃん」「孫たちを乗せる時は、栄理子の車と交換すればいいじゃん」「低くて婆ちゃん乗せやすいじゃん」などと抵抗を続けていた。そんな私に、「ワゴン車なら、車中泊ができるだろ」「一か月点検を終えて出発になるから、そろそろ決めるか」と夫は畳みかける。北海道旅行を提案した手前、頷かざるを得なくなった。

新車購入の同意を得ると、夫の行動は早かった。すぐさま車屋さんに連絡し、話し合いを重ね、七月初旬の納車を決めた。そして、いよいよ新車を受け取りに行く日、目覚めると夫の寝床は空っぽ。前夜あった送別会で飲み過ぎ、どこかに泊まったのかなと思って一階に降りると、居間に寝転がる夫を見つけた。あんなに楽しみにしていた新車なのに、とても取りに行ける状態ではない。買い替えに抵抗していた私が取りに行く羽目になった。

人生の誰彼　20

今岡　幹

原作事件

先だって、漫画のテレビドラマ化を巡ってとても痛ましい事故が起きてしまいました。結果的に一人の漫画家が自ら命を絶ってしまったという事実は真に深刻です。ただ、テレビを見ていた妻は「とても面白くて好きなドラマだった」と言います。その裏で作者の葛藤があったことなど誰も知る由などなかったでしょう。

こういった漫画関連の揉め事で（ドラマ化作品ではなく別件の話になりますが）私が特に記憶しているのが『キャンディキャンディ事件』と『宇宙戦艦ヤマト事件』です。両者とも平成十年前後に発生し、その概要は分かり易く言ってしまえば原作と著作権を巡るトラブルで、訴訟にまで発展しました。

『キャンディ・キャンディ（正確には・がハートマーク）』は水木杏子原作、いがらしゆみこ作画による少女漫画でアニメ化もされ大ヒットした作品です。そのトラブルの発端は、いがらしゆみこ氏が水木杏子氏の了解を得ることなく『キャンディ・キャンディ』のイラストを使った関連商品を制作販売したことでした。

漫画家のいがらし氏にすれば「キャラクターデザインを考えて絵を描いたのは自分だからその絵柄をどう使おうと私の勝手でしょ」みたいな言い分でしょうが、抗議を無視された水木氏はいがらし氏を訴えます。実際はかなり複雑なのですが、要は漫画のキャラデザインに原作者の権利は存在するのかという話で最高裁までもつれ込んだ末、水木氏が全面勝訴する結果となりました。ですが判決後も両者は和解することなく『キャンディ・キャンディ』関連の商品は絶版のままです。

『宇宙戦艦ヤマト』は一九七四年に制作放送された原作漫画無しのテレビオリジナルアニメ作品です。そのトラブルとは、このアニメの制作に携わった漫画家の松本零士氏が、原案者でプロデューサーの西崎義展氏を相手取り「宇宙戦艦ヤマトの原作者は私だ」と言う著作権を巡っての訴訟を起こしたことでした。ここで面妖なのは、元々制作スタッフの一人として自認していた筈の松本氏が、何故に放送後二十年以上も経ってから的外れの著作権争いなどを始めたのか？です。

このアニメは多くの人達が関わったオリジナル作品なので、当然の事ながら裁判の結果松本氏の主張は退けられ、あまつさえその後制作された『宇宙戦艦ヤマト』の映像作品に松本零士の名がクレジットされることは無かったのです。

どちらの先生も欲の皮が突っ張ってたんでしょうか、残念でなりません。

30代フリーター　ＮＨＫに「解体キングダム」という番組がある。百貨店、駅、寺院などの解体現場に密着するドキュメンタリーで、「解体の時代」を暗示しているような番組だ。

年金生活者　現在の資本主義が利潤の主要な源泉としているイノベーションは解体で成り立っている。産業のインフラとなったインターネットからしてそうだ。吉本隆明は「個人と大企業とか、個人と国家とか、これまでは違う次元にあると見なされていたものを連結するのがインターネットだ」と指摘した（『超「20世紀論」下』）。インターネットは次元の壁を解体した。

　イノベーションの成否は、どれだけ異質のもの、異次元のものを結合できるかにかかっている。そのためには差異の壁、次元の壁を解体しなければならない。生成ＡＩは機械と感情の壁の解体に向かっている。技術が人体内に埋め込まれ、両者の壁がなくなる未来も予測されている。

　グローバリゼーションは国境の壁を半壊状態にし、単一の国家では市場を制御できなくなった。少子高齢化は既存の社会保障制度の解体を迫っている。

30代　これまで大規模な解体は戦争によって引き起こされた。

年金　第1次世界大戦は前近代の帝国を、第2次大戦は英国の覇権を、東西冷戦は東側陣営を解体した。ソ連の崩壊と、それ以前から進んでいた中国の資本主義化は世界経済をグローバル化し、デフレを定着させた。それが次元の壁を解体するイノベーションを駆動し、富の稀少性の縮減を加速した。

　東西冷戦の終結は、日本では社会党の解体につながった。細川連立政権で初めて与党を経験し、自社さ政権で首相を出したこの党は、社民党と名を変えたあと弱小政党に転落した。大半の国会議員が新党の民主党に移ったためで、後の民主党政権の成立は社会党の解体の完了を意味した。

　ソ連の崩壊が左右の体制の壁を壊したように、社会党の解体は永田町における左右のイデオロギーの壁を崩した。しかし、それは右側の体制およびイデオロギーの安泰を意味せず、逆にそれを不安定化させた。冷戦に勝利したアメリカはアフガニスタンとイラクでの戦争の泥沼化と、中国の経済的、軍事的な台頭で覇権の後退を余儀なくされた。

　日本の自民党は、社会党の解体によって安泰になったわけではなく、逆に政権の座を追われるはめになった。安倍晋三の政権になってからは「1強多弱」と言われるほど安定与党に戻ったが、いま「1強」ゆえの油断とおごりが裏金の広がりとその暴露を許し、内閣支持率の低迷と党支持率の低下に苦しんでいる。

30代　性や個人のレベルでも解体は進行している。２０２３年の婚姻数は戦後初めて50万組を割り、人口が今の半分だった90年前と同じ水準に減少した。他方で、同性婚を法律で認めるべきだとする考えは、去年の朝日新聞の世論調査で72％に達している。電通による意識調査（２０２３年）では、「職場や学校などの仲間からＬＧＢＴＱ＋などの性的マイノリティーであることをカミングアウトされたときは、ありのまま受け入れたいと思う」と回答した人は、非当事者層の84・６％にのぼった。

年金　変化の背景として、資本主義の高度化が加速する富の稀少性の縮減を考えないわけにはいかない。個人消費に占める選択的消費の割合が必需的消費と肩を並べるまでに拡大した結果、人びとの自由の意識も広がり、性をめぐる既存の社会通念、吉本隆明の言葉を借りれば「対幻想」に対するこれまでの拘束を解体し始めた。

　また「個人幻想」のレベルでの解体の例をあげるなら、たとえば、高度経済成長の時代には、お前は何者だ？と問われれば、○○株式会社のｘｘと答えるに違いない勤め人がいっぱいいた。自分と会社を同一視することにためらいがなかった。今はそうではない。終身雇用制が崩れ、転職がありふれたことになり、会社は自分のアイデンティティーを保証するものではなくなった。それで「自分探し」という言葉が生まれたりもした。

　社会の物差しではなく、自分の物差しで物事を判断せざるを得ない時代になりつつあると言っていい。モノやサービスが豊富になったぶん、フィジカルな負傷を回避しやすくなった代わりに、メンタルな傷を負いやすい時代になったとも言える。勤め人なら、かつては会社に帰属していること自体がメンタルなダメージを防御する壁になり得た。今その壁はなくなるか、薄くなるかしている。

30代　これから「個人」はどこへ向かうのか。

年金　終身雇用制が崩れると、「ひとり1人格」の原則も崩れる。ひとりの個人がいくつもの人格を持たざるを得なくなった。あるときはこの仕事をし、あるときは別の仕事をする。あるときは家族の一員であり、あるときは趣味の同好会のメンバーであり、といったぐあいに、時と場所に応じて人格が入れ替わる生き方を強いられるようになった。

　平野啓一郎が個人の持つ複数の人格を「分人」と呼び、「個人」に代わる新しい人間のモデルとして提唱したら、「気が楽になった」という声が寄せられたのも、「個人」の解体の進行を裏づけている。

ニュース日記　917

中村　礼治

解体の時代